

＜タイトル＞

環境に優しい、安心・安全な農業の実現に向けた『微生物を生きのまま種子にコーティングし保存可能にする技術』を開発
—野菜をはじめとする土壌伝染性病害防除に向けた画期的研究成果—

＜当該研究成果のポイント＞

兵庫県立農林水産技術総合センターと株式会社サカタのタネは、世界初となる『微生物を生きのまま種子にコーティングし保存可能にする技術・ライブコート（商標登録申請中）』を開発し、特許を申請しました。

この技術は、これまで実現不可能とされていた細菌を生きのまま種子にコーティングし保存可能にする技術で、土壌伝染性病害防除の実現を目指すものとして開発しました。

この技術は、農林水産省が推進する産官連携による“先端技術を活用した農林水産研究高度化事業”として近畿中国四国農業研究センターが中核となり実施している「内生細菌利用を基幹としたレタスビッグベイン病防除技術の開発」の一環として得られた技術です（内生細菌とは、植物に病気を引き起こさないが、植物に感染し、増殖することができ、表面殺菌を行った植物から分離ができる細菌のこと）。

＜期待される効果・今後の展開など＞

土壌に生息する病原菌の作物への感染に対し阻害効果のある微生物自体を直接種子にコーティング加工するというこの技術は、農薬に過度に依存することなく病害防除を図り、環境に優しい安心・安全な農業を実現し、従来の圃場全体を消毒する方法などに比べて極めて省力、低コストでの防除を可能にする、画期的な発明と言えます。

＜研究所名＞

（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター

＜担当者名＞

特産作物部 ウイルス病研究室 石川浩一

＜連絡先＞

株式会社 サカタのタネ

広報宣伝部 淡野 一郎 TEL: 045-945-8876